



られて北海道に上陸した後 だったと思う。船に1日ゆ それもそのはず、北海道で たのだから。約千キロとい のバスの旅が待ち受けてい なんと延々千百三十三キロ 僕たちがどこを巡ったこと 新幹線が走る距離に等しい えば、およそ東京博多間を 考えてみると大胆な旅行

僕たちに強烈な印象を与え 思い出の尽きることはない ことができた。それだけに おかげで、見るべき所は余 ラバディ校長の祈りが通じ る。幸運なことに、日ごろ 5 すものなくしっかりと見る たのか、完全にといってい の行いのいい(?)我々は、 け気になる天候のことであ いくらい好天に恵まれた。 まず一つ挙げるとするな 旅が長くなればそれだ

どうしても大切になってく てくれた、そんな旅の日々 さて、長い旅行となると が期待の的。「初めて摩周 中でも、霧が晴れることは に来たとき霧がなけ めったにないという摩周湖

を振り返ってみた。





か。メインは阿寒・網走・ 生徒もいた。 われるような "ベテラン" にガイドを続けていると思 その質は、良くも悪くも旅 るのがバスガイド。やはり いな」てな失礼な事をいう ゃバスの中では寝るしかな ガイドさんもおり、「こり 中には、「年の功だけを楯 行全体の雰囲気を左右する

だから、大胆と呼ぶに相応 札幌で、それはいいが、こ から西へ大移動のため一日 ある。おかげで5日目は東 きり言って北海道の両端で そして、その無謀な計画 良悪両面に渡って、自 ある。 りまで聞けたりすることが たのが「然別」。夜になる ているとなかなか面白いも ある。また、遅くまで起き 夜があってこそ研修旅行で ランプ、……等々、やはり の。懐中電灯のもとでのト 間が班に一人は必ずいるも と妙にはしゃぐ夜行性の人 過ごし、初めて陸で泊まっ そんなガイドさんと1日 寝言はおろか、歯ぎし

と。網走と札幌など、はっ

の3つの位置関係の凄いこ

湖・屈斜路の湖群である。 メインの一つ、阿寒・摩周 明けて3日目。いよいよ

こその研修旅行、いよい

を今でも覚えている。

その翌々日、これあって

響を与えてくれたのである。

と僕たちの旅行生活に影

しい計画ではなかろうか。

の中。こんな移動が続くの の計画のうち十時間がバス

まる なった から



おまけに、熱いのにせかさ いうような態度には閉口。 れて食べたもんで、 から礼ぐらい言え」とでも

うか。

本年も例年通り中学は九州、高校は北海道で研修旅行 M 3 A 大 森 高 橋 M 2 B まで

研修旅行特別号

洛星新聞局 (463) 3281 代) 印刷/衛片桐軽印刷

行

発

で遊覧船に乗った。 行動である。 翌日は、

また、知床峠からは、国後 島がしっかりと見えた。

海道の風景を見たとき、 と、「いかにも北海道」 牧に入港したあと初めて北 見慣れているせいで、苫小 が広がっていたものだ。

う。文化祭・体育祭をクラ そういったことを通じ、 と考えるのは考え過ぎだろ スで団結して乗り切れたの のも、身についたように思 とまることの重要さなるも い出を作ることができた。 る行動を共にし、様々な思 だけに、友達などとあらゆ **販であったが、それと同時** こと自体、まさに貴重な体 そういった自然に接する この旅のお陰だった、 旅行が長期にわたった

た。中学は大森局員、高校はHⅡDの竹内徹君にその報 が行われそれぞれ多くの貴重な思い出を得て無事終了し あ···。) った。(でも、気になるな 山の異臭に悩まされ続けた。 的」という言葉がいかに似 合うかほんとに、よく分か かりと湖はあった。「神秘 た…。不思議なくらいぼっ しておいたのだが、 (案の定?)、霧はなかっ この日は、そのあと硫黄 なんと

告をお願いした。

がかすんで空と海との区別 ともいえない光景だった。 がつかないさまなどは、 ここもいい天気で、水平線 網走でABC A班はウトロ やはり

ていない。しかし、ふと車 何度トランプをしたか覚え り移動に要した時間が多く、 た8日間であったが、やは が楽しいのである。 えながらまとめ買いするの 偽って後輩に…」などと考 こうして、瞬く間に過ぎ

牧草地と点在するサイロ… 線まで広がる田畑、広大な 思わせるような風景―地平 窓に広がる風景を見てみる ちまちました街の風景に 4

ばし啞然としてしまったの 念碑へ向かう。

ル着、 にせまるものがあった。 爆者の人の語り口は、迫真 大浦教会でミサ・講演。 に第一日は終わっていった。 7時起床、ホテルを出 第二日 18時、稲佐山観光ホテ 百万ドルの夜景と共



たのだ。明日からは…。 かし、後から考えてみると だしいような気がする。 和公園へ、いろいろあわた こう晴れて天気のいいうち いろいろ回れてよかっ それから平

頂へ。

そそくさと下山。バスで黒 りに化けて、戸惑ったが、 川温泉瀬の本観光ホテルへ

終わりを告げた。

10時20分 いよいよ班別

クスをガイドさんが言って いた。気にもせずに聞き流 「婚期」を逃す」てなジン と。あの店に意地で並んだ ンだけになってしまったこ とり過ぎて、夕飯がラーメ ったのは、その店で時間を のが間違いだった。 ひまもなかった。もっと参



しみと言えば、みやげ選び。 もう一つの研修旅行の楽

はずがない。やはり、「五 だが、どう考えても本当の バサンが多い。「うそだ」 〇〇円のバター飴を千円と とも言えないだけについつ どと迫る商魂たくましいオ い口車に乗ってしまいがち しかし、どこにいっても 「ここが一番安いのよ」な のだ。 がないのが淋しい。しかし に、これから九州へ旅立つ 彼の写真は、彼の所属して ただ、この中に谷田君の姿 いたB2班のメンバーと共

あたふたと駅前に待機して るグループがあちこちに… 旅だ。早速盛り上がってい に乗りこむ。これから長崎 いたバスで、 へ、長いようで短い列車の 8時半、いよいよ新幹線 14時半、長崎着。暑い。 二十六聖人記

ル着。明日は阿蘇だ。

18時10分。雲仙新湯ホテ

第三日



立してい 新聞にふ 獄めぐり。しかし、地獄の フェリーの中で、スポーツ 少し小やみになったようだ。 らフェリーで三角へ。雨も 裏側に、 「中日―巨人、今日の見ど バスで島原城へ、島原か かけっている者も、 たのは興ざめ。 旅館のバイブが乱

にエンジンのうなり音が聞

にも一等はせまい。おまけ

10時消灯。しかし、何分

こえてくる。何人かが徹夜

徒のカラオケ大会。 走。バスの中では先生、生三角からバスは阿蘇へ疾 ころ

皆寝入り、見回りの先生も

ッとした様であった。

さすがに 12時ごろには、 を決意し、寝床を離れた。

かを協議。どうやら登頂の 阿蘇に着いた様だ。雨が強 い。先生方が、登頂か断念 「待避壕」行き。そこで男 説明後、ガイドが写真売 盛り上がっているうちに しかし風雨が強く さんから説明。 ロープウェーで山

第五日

中 派行



スで休けい。

のみ城跡を見学。残りはバ 田城跡に、ここでは希望者 最終日である。 9時半、竹

第一日

生方に比べ、生徒は元気だ 洛星中学35期生18人が集ま (?)生活に顔をしかめる先 これからの5日間の共同 った。 7時半集合である。 その日、京都駅八条口に 益々大きくなっただろう。 この間、 乗って行く所はどこか。グ めている先生方の気苦労は

图、崇福寺、出島…。

四海桜の本部につ

生徒達る が窓の外を見ると、雨だ。 窓の外の 16時集合、バスを飛ばし 一路雲仙へ向かうのだ い景色も悪くなり、 退屈そうだ。

「さんふらあⅡ」に。ここ

いよいよ別府。夕食後、

もいた。 ラの試食場に群れをなす者 いるが、 産地。おみやげを買う者も 休み。ここはカステラの生 途中、 その中にはカステ 愛野という所で一

にぎやかであった。 はトランプなどに燃えたり 出港。これから消灯まで





なった様だ。

中は暖く、風景が幻想的だ 14時半、風連鐘乳洞に。

こでは、少し雨は小降りに 臼杵石仏見学。こ

正午、

時である。市電に

は帰れるだろうか…。 雨が強い。今日は、九州 第四日

向かった。雨が強い。明日

6時起床(徹夜組にはあ

うで案外短かい研修旅行は で学校へ…ここに、長いよ てはまらない。) 7時朝食、大阪は近い。 8時20分、大阪着。バス

800 総合3位

8分48位1

梶谷君

国体三位

100

E自由形

400

m

自由形)

春季府大会

高校総体 高

校

● バドミントン部 ■

全国大会 (盛岡)

3

B

谷

H

逝

下級の部

津君

全

国

中

学弓

道

大

優

勝

総合体育大会

上級の部

洛星30—48山城 洛星88-15乙訓

洛星0-3京商

大津・松浦0-4綾部

津田・上野3―4伏見工

40m自由形

4分13秒8

京都中学新

ハンドボール部

予選選決勝

洛星15-8西京極

洛星8-49園部

200 田平泳

千代

2分30秒8

予選

洛星14—7西京極

2次予選

洛星11-23月輪

夏季大会 春季大会 校 春季大会 近畿大会 三都市大会 府下大会 全国中学選抜 400 総合3位 100 m 自由形 100m自由形 00m自由形 20年自由形 梶谷 200m自由形 100m自由形 梶谷 400 mリレー 総合3位 20m自由形 10m自由形 梶谷 400 mリレー 400 mメドレーリレー 総合2位 400 mリレー 40mメドレーリレー 総合1位 1位 1 位 学泳 1 位 1 位 55 秒 49 55秒4 55秒8 2分00秒9 4分14秒6 (3年) (京都中学新) 4 分 05 秒 8 2位 1分59 大会新 1 位 1 位 4分13秒4 4分43秒7 京都中学新 4分47秒5 京都中学新 京都中学新 4分0秒2 4分05秒7 大会新 国体予選 国体夏季大会 近畿大会 府下大会 インターハイ 400 総合3位 200 m平泳 200m平泳 少年B 少年A 100m自由形 少年男子B 100m自由形 400m自由形 200 m平泳 200m自由形 少年男子A 200 m平泳 9位 2位 3位 千 57 代 6 2分35秒4

京都中学新

洛星0-2附京

洛星35 4回戦 洛星42

42 太楽

近畿高等学校弓道大会

ダブルス

準決勝

35 樫原

準優勝

三位決定戦

上杉2-0横山

(滋賀)

春季大会

一次戦二回戦

上杉0-2河村

(奈良)

4回戦

春季大会 夏季大会 中学 2回戦 坂 ・武田1-4修学秋山・田井1-4桂 樋口・間嶋2―4附京

市内3回戦 市内4回戦 學々決勝戦 坂 · 武田1-4梅津桶口·間嶋3-4嵯峨 秋山・田井2-3洛西

私学総体 準決勝 洛星66

個人 藤井功 共に大会進出決定 12中 (2位) (2位)

三位決定戦 石炭井 石炭井

(奈良) 西 一次戦決勝

二回戦 洛星3 10鳥羽

2山科

校】 整ケ岡2―1洛星 洛星4-2北陵 全国大会近畿予選 出場決定戦 洛星3-2仁川学院 何原・内方筒 2 増田・渡辺路

洛星2 15 15 0 成徳

シングルス ダブルス 增田路6—2内方路 中立灘4-1洛星 夏季大会 2回戦

10年自由形 伊藤 100m自由形 伊藤 200m平泳 千代 20年自邦 京 2位 57秒2 1位 2分34秒5 3位 4分38秒3 56秒8 千代 分 伊藤 秒 5 2分41秒4 2分33秒8 2分05秒8 2分31秒5 2分31秒5 岡崎 夏季選手権大会 春季総体 個人戦 フリー 団体戦 1・2年の部 高野 二回戦安田 三回戦 高野 三回戦安田 一回戦

二回戦

桂

三回戦

春季大会

洛星10-20西字治

洛星12-17京都西

決勝リーグ出場決定戦

洛星16-5高雄

中

道

部

洛星13-25月輪

洛星12—16洛西

全国中学校通信弓道大会

M 3

栗津智之

インターハイ予選 総体下級の部 団体戦 個人戦 1・2年の部 桂 回戦 三回戦 回戦戦 優勝

> 洛星14-21大谷 洛星9-6東山

石岩井

市内春季大会

3位岩井・石渡組

洛星11-1東山

(4回コールド)

● 硬式

庭球部

2回戦

3回戦

洛星4-0桂

洛星21-5宇治

洛星30—11京商

洛星24-7平安 洛星21-9成章

夏季大会 春季大会 ・バスケット部 2回戦 2回戦 洛星42 洛星47 20 22 1 1 38 23 29 18 | | 15 19 61 桃陵 34附京

インターハイ 準決勝 予選選 校 4射3中で敗退 4射3中で通過

シングルス 三位決定戦 洛星0-2四条畷 洛星1-2堅下北 学園

市内夏季大会 3回戦 2回戦 洛星4-0安祥寺 洛星2-1久世 修学院3-1洛星 (延長9回)

洛星5-0同志社

4回戦

1 桃 附

3位決定戦

府下大会学 インターハイ京都予選 団体決勝 回戦 洛星1-2桃山

> 春季大会 ● バレーボール部 ■ 2回戦 3回戦 洛星 2 15 15 1 11 0八条

洛星45—38同志社国際 団体上位リーグ戦 洛星2位 石渡2 張間/ 石渡井 上位リーグ戦 上位リーグ戦 富樫2-0三上 上杉2-0富樫 洛星0-3西陵 洛星3-0同志社 洛星2―1蜂ケ岡 富樫0-2横山 上杉1-2横山 上杉2-0三上 3位 宮樫 2位 上杉 (同志社) (西陵) (西陵) (洛星) (西陵) ジュニア京都府予選 準決勝 上杉 O— ダブルス シングルス 二回戦 二回戦

夏季大会

準決勝

洛星42-70鳥羽

洛星53-49山城

ダブルス 二回戦 石炭井 今井澤 (西乙訓) (北嵯峨) 上杉/

秋季大会 一次戦決勝 一次戦二回戦 洛星0-6八幡 洛星4-2東山

• 野

全国大会 団体一回戦 新座六中4-1洛星

(M3B担任 山本繁史)

上杉1-2増田 上杉2-0小林 西村0-2上杉 上杉2-1寺田 富樫0-2能内 2山本 (西乙訓) (北嵯峨) (西乙訓) (東山) (東京) (香川) 「私が初めてブンタという思い出を綴って頂いた。 だった。 像したのだが、彼は想像と 私が管原文太のような顔 相撲の強い子がいる。』 る。『ブンタと呼ばれる腕彼のクラスの友人からであ 名を耳にしたのは、二年前、 堂で中三全員が参加して彼 谷田有基君が急逝した。彼 余り目立たない方だったが れくさそうに笑って教えて れるのか聞いたが、彼は照 は違う、 の、がっ であった。九月三十日御聖 ろうとしていた矢先の不幸 から充実した学生生活を送 星に入っ は平素心臓が弱かったが洛 くれなかった。実際、彼は の為に御ミサが捧げられた。 なぜブンタと呼ば おとなしそうな子 ちりした体格を想 てまだ三年、これ

家にお参りに行くと、仏壇 だった。だから後日、彼の できる、がっちりしたもの 有基君。きっと安らかに。」 私はまた一つ、大切な事を 生懸命に生きてきたのだ。 の前に鉄アレイが供えられ が、不幸は誰も止められな 術を受けると聞いた時、彼 お父さんから、この夏に手 プンタと呼ばれるのも納得 教えられた。ありがとう、 ていた。生前、毎日鍛えて かった。お葬式の後、彼の なら大丈夫だと信じていた 康診断の時の彼の上半身は いたという。彼は毎日、一

去る八 月八日、M3Bの

った。そして今年、春の健 弱い事を感じさせない程、 笑っていた。普段は心臓が 今思い出すと、彼はいつも 育では思いきりバットを振 山登りがしたいと言い、体 朗らかだった。遠足では、